

第 31 期（令和 7 年度）事業報告
（令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで）

全体報告

池田記念美術館は開館 27 年目、公益財団法人としても 12 年目を迎えました。

南魚沼市との間で取り交わした期間 10 年（平成 26 年度～令和 5 年度（2023））の管理運営に関する協定は令和 6 年 3 月末で満期となり、新たに期間 10 年の協定書を締結し、引き続き南魚沼市との連携・協力を高め、魚沼地域の文化芸術活動の向上と普及に貢献することになりました。

令和 7 年 5 月 22 日の理事会は美術館を会場に開催し、第 30 期の事業・決算報告が承認されました。同じく美術館で開催された 6 月 20 日の定時評議員会では第 30 期貸借対照表・損益計算書・財産目録につきそれぞれ承認されました。また、令和 8 年 2 月 25 日の理事会は東京での開催となり、第 32 期（令和 8 年度）事業計画及び収支計画などにつき承認されました。

1998 年の開館以来、四半世紀を経過し、館内の各種設備も経年劣化や故障箇所が目につくようになり、南魚沼市の費用負担によって 3 年計画 3 年目の LED 交換工事を執り行いました。これにより、全館の LED 化は完了しました。原油価格の高騰によって大幅に増加した光熱費（電気代・灯油代）対策として、令和 6 年 8 月から電気需給契約をそれまでの「東北電力」から「ゆきぐに新電力」に変更。また、令和 4 年度から開館時間を変更し、冬期間（1 月 1 日～3 月 31 日）の開館を 9 時 30 分～17 時としましたが、令和 7 年度も引き続き継続しました（他の期間は従来通り 9 時～17 時）。ただし、光熱水費（主に電気代と灯油代）は毎年、事業活動支出の 20～25%（7 年度は約 25%）を占めており、本年度は当初予算内に収まりはしましたが、原油を巡る世界情勢の悪化は美術館運営にも大きく影響を与えています。

【展覧会について】

全国区で通用する展覧会として、①全国良寛会の地元開催と連携し、併せてカナダ・ケベック州との国際交流の場として企画した「世界とつながる書の魅力展」②現代美術の作家 25 人の作品と地元の子どもの作品を展示した「第 1 回八色の森ビエンナーレ 2025」③NHK の朝ドラ「ばけげん」関連企画として 11 月と 3 月に「小泉セツ資料展」を開催しました。

地域の文化活動の促進に寄与するための展覧会として、①「大竹幸子遺作展」②「八海山夢展」③「八海山ジュニア展」④「南魚沼郡市児童生徒美術展」⑤「ベストショット展」を例年通り開催しました。また、地域との連携をより一層深めるために、⑥「大和文化祭」⑦「南魚美術協会会員展」⑧「小千谷市展市長賞・池田記念美術館賞特別展示」を開催しました。なお、小千谷市教育委員会からの要請によって、本年度より小千谷市展の 6 部門（日本画、書道、水墨画、洋画・版画、工芸・彫塑）で「池田記念美術館賞」を提供することになりました。

【小泉八雲関係資料デジタルアーカイブ化事業】

令和7年度の文化庁 Innovate MUSEUM 事業の補助金によって「小泉八雲関係資料デジタルアーカイブ化」に着手しました。池田記念美術館が収蔵している八雲関係資料は約1,500点あり、資料調査やリスト作成が不十分だったため、今年度は小泉八雲直筆、小泉八雲宛書簡、小泉セツ宛書簡を中心にデータベース化を実施。調査・撮影・検索システム登録（早稲田システム開発 I.B. MUSEUM）を経て、ホームページ上に資料508点、写真1,484点を公開しました。そのうち50点については文化庁の「文化遺産オンライン」に登録しました。

【アウトリーチ事業（地域との連携）】

令和7年5月から、池田記念美術館を拠点に活動する地域おこし協力隊員（市の臨時職員）が赴任し、地域や学校と連携した活動を美術館スタッフと共同で継続中です。こども園、学童クラブ、小学校、中学校などでの出前授業（造形遊びのワークショップ）のほか、八海山麓スキー場においては、地元ボランティアの協力を得て、「アクティブサンロック」（7～8月）で「風ぐるま」を設置、「ホワイトカーニバル」では「雪の錯覚すべり台」を制作しました。

①出前授業の実績

浦佐認定こども園、学童クラブ（大空クラブ、太陽クラブ）、ほっかキッズ、後山小学校、赤石小学校、大和中学校美術部

講師：山室茉由（地域おこし協力隊）、大嶋彰（作家）、室井公美子（作家）、佐藤未来（作家）

②哲学対話ファシリテーター養成講座

8月6日に立教大学の河野哲也先生を招聘して哲学対話に関する解説とともに、「若い人が魅力を感じる地域とは」をテーマに哲学対話を実践しました。

③中高校生の探究活動支援

「これからの美術館は作品をただ展示するだけではなく、作品を媒介に思考・対話する教育現場としても機能する必要がある」と考え、2017年から「八色の森の美術展」を開催し、子どもたちの造形活動への支援や現代美術の鑑賞を通じた哲学対話を実践。その一環として、2023年7月からは高校生の探究活動の場として美術館を提供し、座学やワークショップを実施しながら美術鑑賞の多様性や解釈の多義性、美術の楽しさなどについて学んできました。本年度の成果として、秋に開催した「八色の森ビエンナーレ」において、展示空間の再構成（展示の入れ替え）と中高校生による作品解説会を実施しました。

④一箱古本市@池田記念美術館

■8月3日～23日、1月11日～18日

個人が自分の古書をワイン箱に並べて販売するイベント。毎回、個性的な古本を楽しめると好評です。夏と冬にそれぞれ開催しました。

⑤雪見展

■1月11日～12日（対面販売）

■1月13日～4月4日（無人販売）

真冬のクラフトマーケット。雑貨やパンなどのショップ、キッチンカーが並び、「南魚沼郡市児童生徒美術展」鑑賞と共に、家族で楽しめるイベントとして開催してきました。フリーマーケットが少ない冬に開催することから近隣地域以外からの出店もあり、2日間の対面販売では約1,300人の来館者がありました。

⑥八海山麓スキー場での活動

7月から8月にかけて開催されたイベント「アクティブサンロックサマー」に協賛して、地元の子どもたちや地域住民と一緒に、ゲレンデ内に風ぐるまを設営しました。夜間はライトアップされて、グリーンシーズンのスキー場利用者から喜ばれました。また、3月8日の「ホワイトカーニバル」にも協賛し、明治大学特別教授・杉原厚吉先生とボランティアの協力によって、一辺8メートルの正六角形からなる「雪の錯覚すべり台」を制作・披露しました。

【ベースボール・マガジン社新潟支社との連携】

総合型地域スポーツクラブ「スポーツ&ライフ南魚沼」と連携して、美文字講座、エアロヨガ教室を実施。3月には「折り紙教室」をプレ開催しました。

【新潟日報社との連携】〈施設提供〉

新潟日報社が運営するカルチャースクールの会場として毎月2回、休館日（水曜日）に施設を提供。仏像彫刻、ハーモニカ、太極拳の教室を開催しました。

【エントランスホールの活用】

コロナ禍で休止していた参加費無料の池美アコースティックライブを2025年2月から再開し、毎月第4日曜日に定期開催。毎回、多くのファンで賑わっています。8月24日には有料で「真夏のフォークライブ」を特別開催しました。また、7月5日～6日には、俳優・演出家の井上弘久さんが石牟礼道子『椿の海の記』を一人で舞台化した「朗読演劇」の会を開催しました。

【年間パスポート】

平成28年度から発行している年間パスポート（3,000円）の会員数は47人、平成30年度から新たに開始した法人パスポート（10,000円）の会員数は11件です。同じく、喫茶収入を増やすために、平成30年度から始めたドリンクチケット（5杯つづり1,200円）は年間149枚の需要がありました。

【各種補助金、助成金】

国（文化庁）から Innovate MUSEUM 事業に選定された「小泉八雲関係資料デジタルアーカイブ化事業」に対して、新潟県から県民文化活動推進事業として「第1回八色の森ビエンナーレ」

に対して、カメイ社会教育振興財団からは「世界とつながる書の魅力展」の国際交流事業に対して、また、内田エネルギー科学振興財団からは「八海山麓スキー場での夏と冬のイベント」に対して、それぞれ補助金・助成金がありました。

国（文化庁）	小泉八雲関係資料デジタルアーカイブ化事業	1,296,900 円
新潟県	「第1回八色の森ビエンナーレ 2025」	690,000 円
カメイ社会教育振興財団	「世界とつながる書の魅力展」	200,000 円
内田エネルギー科学振興財団	地域活性化活動・再生活動事業費として	200,000 円

【入館者数】

以下は、公益財団法人移行後の入館者数、有料入館者数です。

	入館者数（人）	有料入館者数（人）
20 期（H26 年度）	19,597	11,960
21 期（H27 年度）	16,471	7,601
22 期（H28 年度）	20,302	10,101
23 期（H29 年度）	16,186	6,905
24 期（H30 年度）	16,193	5,681
25 期（H31 年度）	16,309	5,207
26 期（R 2 年度）	10,452	3,902
27 期（R 3 年度）	13,307	4,965
28 期（R 4 年度）	12,752	5,451
29 期（R 5 年度）	13,371	4,696
30 期（R 6 年度）	13,049	4,030
31 期（R 7 年度）	14,395	5,013

【事業収益の内容】

以下は、公益財団法人移行後の事業収益の内容です。

	入館料 収入	施設 使用料	企画事業 収入	カードシ ョー収入	売店収入	喫茶収入	委託販売 手数料	合計（円）
20 期	5,552,515		3,782,688	1,377,220	3,963,328	1,181,938		15,857,689
21 期	3,679,790		6,848,309	1,187,600	2,459,667	1,095,161		15,270,527
22 期	5,316,582		1,142,766	1,142,800	3,642,463	961,829		12,206,440
23 期	3,789,970		1,339,159	1,403,760	1,418,750	827,992	86,996	8,866,627
24 期	3,812,030		819,690	1,229,000	1,323,570	996,766	60,000	8,241,056
25 期	3,722,840		4,383,974	1,121,400	2,982,806	758,410	6,000	12,975,430

26 期	2,392,850		3,155,953	0	1,439,454	460,938	40,000	7,489,195
27 期	2,828,600		3,125,372	1,342,050	1,264,918	556,494	38,000	9,155,434
28 期	3,153,550		3,594,090	1,539,100	2,734,715	584,759	15,064	11,621,278
29 期	2,460,580	518,900	3,614,973	0	900,511	515,460	2,364	8,012,788
30 期	2,215,500	697,580	3,038,039	510,500	1,382,860	569,090	0	8,413,569
31 期	2,707,100	768,100	3,672,658	953,400	1,430,694	724,400	0	10,256,352

これまで施設使用に関する収入（新潟日報カルチャースクール、雪見展など）を「入館料収入」として計上してきましたが、第 29 期より「施設使用料」の項目を新設して、より厳密化しました。また、23 期以降の委託販売手数料は「ベーマガ米」の販売手数料ですが、第 30 期より「売店収入」に移行しました。

※ 第 20 期（平成 26 年度）は「国民栄誉賞受賞記念の長嶋茂雄展」、南魚沼市市制 10 周年記念事業として採択された「石川雲蝶展」「星野富弘展」の大型企画が 3 本あり、入館者数が増加。グッズや小作品の販売によって売店収入も増加しました。

第 21 期（平成 27 年度）は絵画 1 点の委託販売料（224 万円）と、新潟大学・南魚沼市との共同企画（魚沼ー記録と記憶の再生プロジェクトー）が文化庁の助成を得たため（333 万円）企画事業収入が増加しています。

第 22 期（平成 28 年度）は「錯覚展」がマスコミ各社に大きく取り上げられた結果、冬期間の来館者数・入館料が大幅に増加しました。小作品の販売によって売店収入も増加しました。

第 23 期（平成 29 年度）は前期と比較して、1 月～2 月の豪雪・悪天候も影響したため、冬期間の入館者数と入館料が減少しました。

第 24 期（平成 30 年度）はイベント時のスポーツウェア販売が落ち込んだため企画事業収入が減少しました。

第 25 期（令和元年度）の企画事業収入が前年に比べて増加しているのは、「八色の森の美術展」記録集制作にあたっての協賛金・広告費収入、「ふれる かんじる 楽しい美術展」開催にあたっての新潟県からの援助などによるものです。また、売店収入の増加は小作品と画集の委託販売収入増によるものです。

第 26 期（令和 2 年度）はコロナ禍でカードショー中止のため収入がありませんでした。

第 27 期（令和 3 年度）はカードショーを年間 3 回開催したことによりカードショー収入が例年通りの数字となりました。

第 28 期（令和 4 年度）の売店収入の増加は絵画作品の売上げによるものです。

第 29 期（令和 5 年度）はカード売れ切れのため、カードショーを実施できませんでした。

第 30 期（令和 6 年度）の売店収入の増加分は、市制 20 周年イベント「おにぎり&ミュージックフェス」のチケット売上げ（282 枚、310,200 円）です。同じく、施設使用料には、夏休みに小金井市の子供会から依頼されたワークショップ料金（238 名）119,000 円が入っています。エントランスホールを使用したので施設使用料として計上しました。12 月は前年同様、LED 工事のため開館日数が減っています。

第31期（令和7年度）はNHK朝ドラ「ばけばけ」の放映によって入館者数が増えたことにより、11月と3月の入館料収入が増加しました。また、今年度から始まった「大和文化祭」「南魚美術協会会員展」の使用料は施設使用料として計上しました。喫茶収入の増加は販売価格の値上げによるものです。企画事業収入には新たに、5月から美術館を拠点に活動することになった地域おこし協力隊の活動委託費が計上されています。

以下、援助事業、美術館事業、スポーツ協賛事業、収益事業などにつき説明いたします。

1、環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流援助事業

公募により、環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流事業に対して援助（1件10万円、2件以内）となっていますが、応募はありませんでした。

2、国際的なスポーツの学術的研究に対する援助事業

隔年事業のため、令和7年度の募集はありませんでした。

3、美術館事業

1）企画展覧会

「スポーツ文化展示室」「小泉八雲文学資料室」での常設展示のほか、以下の企画展を開催しました。

① 池田記念美術館収蔵品展＋冬季特別展示 第8回 錯覚展

■会期：4月1日（火）～4月5日（土）

（開館日数3日、入館者数154人）

前年度3月15日からの「池田記念美術館収蔵品展」と同じく1月25日からの「冬季特別展示 第8回錯覚展」を4月5日まで開催しました。

② 大竹幸子遺作展 ― 人を想い、人を描く ―

■会期：4月12日（土）～5月24日（土）

（開館日数37日、入館者数971人）

1950年秋田県由利郡大内町（現・由利本荘市）生まれ。18歳からは六日町、五日町で暮らして2024年に逝去した大竹幸子氏の遺作展。今回の展覧会では、繁城山法音寺の協力で寺で収蔵する作品を含め、南魚沼郡展賞・奨励賞を受賞した30代の作品や、新潟県展で新潟日報美術振興賞を受賞した「収穫」シリーズなど45点を展示。大竹幸子氏の画業集大成となりました。4月11日には故人の友人や支援者などを招待し偲ぶ会を開催。4月12日と5月3日に永井昭司氏を講師に解説会も開催しました。

③ 全国良寛会南魚沼大会記念

世界とつながる書の魅力展 ― ケベック、日本、そして私 ―

■会期：5月31日（土）～7月12日（土）

（開館日数 37 日、入館者数 1,325 人）

6月28日～29日に南魚沼市で開催された全国良寛会で記念講演を担当した書道家の寺本小鳳さんは2017年、カナダ・ケベック州ラバル大学エスパスジャパンの講師として書道を中心に日本の伝統文化を学ぶケベック書道部を設立。書を通じた国際交流に尽力し、昨年3月には東京日本橋の小津ギャラリーでケベックの会員の作品を紹介する東京展を開催しました。今回の企画展では、東京展の展示作品と寺本小鳳さんの作品（良寛の和歌など含め）のほか、当館で所蔵している「良寛の書」や「良寛像」を展示。併せて、写真家の白石ちえこさんが撮影したケベックの写真と、地元魚沼の書道教室に通う中高校生と書道愛好家に良寛の言葉を書にした作品を募集して展示。ケベック州在日事務所提供のケベック紹介パネル、映像もあり、美術館を舞台に、ともに雪深いケベックと魚沼の国際交流となりました。会期中、来日したケベック書道部会員（ヴィルジニ・ボードワンさん、アレクサンドル・ジュアンさん）と写真家・白石ちえこさん、寺本小鳳さんによるトークショー、ワークショップ、文化講座を開催。

④ 第26回 八海山夢展

■会期：7月19日（土）～9月6日（土）

（開館日数 43 日、入館者数 2,589 人）

魚沼地域在住の美術愛好家を中心に、地元の美術振興を目的に創設され、今回で26回目の開催となりました。主催は八海山夢展実行委員会。絵画・書道・写真・水石・工芸の5部門で95名・114点の作品を展示した。出展者の内訳は南魚沼市45名、魚沼市27名、その他湯沢町・十日町市・長岡市・新潟市などからも出展していただきました。関連イベントとして、出展者による解説会や体験教室も開催、全5回で計78名が参加し、昨年より大幅に増加しました。

⑤ 第7回 八海山ジュニア展

■会期：7月19日（土）～9月6日（土）

（開館日数 43 日、入館者数 2,589 人）

「八海山夢展」の会期に合わせて開催。令和6年度新潟県ジュニア美術展覧会に入賞した南魚沼市と魚沼市の児童生徒の作品を展示しました。

⑥ 第1回 八色の森ビエンナーレ2025 ― 美術館がはらっぱに 拡張する感性 ―

■会期：9月13日（土）～11月3日（月・祝）

（開館日数 45 日、入館者数 1,772 人）

2017年から2024年まで8年連続開催した「八色の森の美術展」と高校生が主体的にキュレーションした「アート試食会」の実績と総括のもとに企画した現代美術展。出品作家の作品と地元の子どもの作品との共同展示や、講演会・文化講座・ワークショップ、鑑賞型哲学対話などの関連イベントによって各方面から高く評価されてきた美術展を継承しながらも進化を求めて開催しました。会期中、ヴィヴィアン佐藤さんの講演会、立教大学・河野哲也先生を

招聘しての鑑賞型哲学対話、中高校生が解説する作品鑑賞会、出品作家による車座シンポジウム（ファシリテーター：佐々瞬さん）を開催しました。

⑦ ハーンが愛した“世界で一番良きママさん” 小泉セツ資料展

■会期：11月8日（土）～12月6日（日）

（開館日数 25 日、入館者数 1,812 人）

NHK 朝ドラ「ばけばけ」放送に合わせて企画。池田記念美術館が所蔵する、小泉セツの資料を中心に、夫の八雲、子どもたちとの関係を紹介しました。家族間で交わされた手紙や、友人からの手紙、愛蔵品など、当館にしかない貴重な資料を展示しました。会期中の 11 月 8 日に小泉凡氏の講演会も開催、90 名の参加者がありました。新潟日報でも紹介され、大変話題になり、県内外から来館者が増加しました。書籍等の関連グッズの販売も好評でした。

⑧ 第 4 回 大和文化祭

■会期：11月15日（土）～11月16日（日）

（開館日数 2 日、入館者数 479 人）

これまで大和 B&G 体育館で実施されていた文化祭を、当館に会場を移して開催しました。絵画、書道、写真、絵手紙、パッチワーク、ロマンドール、生花など、大和地域に住む愛好家の作品を展示。両日とも南魚沼市の補助で全館入館無料としました。

⑨ 第 45 回 小千谷市展（市長賞・池田記念美術館賞）受賞作品特別展示

■会期：11月22日（土）～12月6日（日）

（開館日数 13 日、入館者数 694 人）

小千谷市展において新たに「池田記念美術館賞」が創設され、日本画、書道、水墨画、写真、洋画・版画、工芸・彫塑の 6 部門の受賞作品と市長賞受賞作品、合計 12 点を展示しました。

⑩ 第 46 回 南魚美術協会会員展

■会期：12月12日（金）～12月14日（日）

（開館日数 3 日、入館者数 711 人）

大和文化祭と同様に当館に会場を移して開催しました。絵画、彫刻、書道、写真部門の作品を展示。会期中は南魚沼市の補助で全館入館無料としました。

⑪ 第 70 回記念 南魚沼郡市児童生徒美術展

■会期：1月5日（月）～1月20日（火）

（開館日数 14 日、入館者数 2,457 人）

南魚沼市と湯沢町の児童生徒の作品（絵画、デザイン、版画、立体）469 点（南魚沼市 429 点・湯沢町 40 点）と教職員の作品を展示。今回は 70 回展記念で大人も子どもも参加できるワークショップ「節分かざりをつくろう」を開催しました。会期中、毎年恒例の雪見展と一箱古本市も開催。期間中は南魚沼市と湯沢町からの補助で全館入館無料としました。

⑫ 第15回記念 魚沼ベストショット展

■会期：1月24日（土）～3月8日（日）

（開館日数38日、入館者数1,475人）

美しい風景の宝庫・魚沼に魅せられた写真家が自慢のベストショットを展示し、49人が出展、展示作品は98点になりました。15回記念展として、新たな試みで、テーマ展示部門を新設しました。魚沼地域に限定せず「雪」をテーマにした作品を募集したところ、28点の応募がありました。記念講演会として風景写真家・佐藤尚さんによる「ここが好きだから通いつける。― 魚沼を撮る“方法と視点” ―」と、出展者による解説会を開催しました。

⑬ 冬季特別展示 第9回 錯覚展 2026

■会期：1月24日（土）～4月4日（土）

（開館日数57日、入館者数2,702人）

東大名誉教授、明治大学研究特別教授で、世界ベスト錯覚コンテストで何度も優勝実績のある錯視研究の第一人者、杉原厚吉先生が制作した新作作品を紹介。会期中、3月8日に八海山麓スキー場で実施されたホワイトカーニバルで「雪の錯覚すべり台」を公開しました。

⑭ 池田記念美術館収蔵品展・小泉セツ資料展

■会期：3月14日（土）～4月4日（土）

（開館日数19日、入館者数1,227人）

11月に開催した小泉セツ資料展が好評だったので、展示資料の一部を変更して開催しました。NHK新潟放送局のニュースで取り上げられ、県内各地から大勢のドラマファンが来館し、ご好評いただきました。

2) 常設展示

NHK朝ドラ「ばけばけ」の放送に合わせて、小泉八雲文学資料室に小泉セツ関連資料を追加して展示しました。

3) スポーツ関係部門

「スポーツ文化資料室」において、池田理事長から送られた野球資料を展示しました（松井秀喜、イチローのサインボールほか）。また、千葉功氏遺品を展示しました（「記録の手帖」直筆原稿、連載2,000回の新聞記事ほか）。8月9日、小宮山監督以下、早稲田大学野球部のスタッフ・選手がスポーツ文化展示室を見学しました。

4、スポーツ協賛事業

スポーツイベントに積極的に参加し、主催、協賛、実行委員会への参加などによって、地域とのスポーツ交流を促進しました。

① ベースボール・マガジン旗争奪上越沿線少年親善野球大会

日時：2025 年 5 月 17 日～18 日、24 日

主催：株式会社ベースボール・マガジン社／公益財団法人池田記念スポーツ文化財団

共催：魚沼市教育委員会 主管：魚沼市野球連盟 後援：魚沼市体育協会

会場：広神野球場

② さわやかジョギング大会

日時：2025 年 6 月 1 日

主催：南魚沼市教育委員会

協賛：公益財団法人池田記念スポーツ文化財団

会場：八色の森公園周辺特設コース

③ 南魚沼グルメマラソン

日時：2025 年 6 月 8 日

主催：南魚沼グルメマラソン実行委員会

会場：八色の森公園周辺特設コース

④ 八海山麓スキー場アクティブサンロックサマー

日時：2025 年 7 月 13 日～8 月 17 日

主催：アクティブサンロック実行委員会

会場：八海山麓スキー場

⑤ 八海山麓スキー場ホワイトカーニバル

日時：2026 年 3 月 8 日

主催：八海山麓ホワイトカーニバル実行委員会

会場：八海山麓スキー場

⑥ 八色の森公園子ども雪まつり

日時：2026 年 3 月 15 日

主催：浦佐こども雪まつり実行委員会

会場：八色の森公園特設会場

5、収益事業

1) 売店収入

企画展、ワークショップなどと連動して、作家の小作品、画集、写真集、図録、DVD、関連グッズなどの売上げアップを図りました。委託販売のグッズも取り揃え、ショップを充実させました。また、「魚沼産コシヒカリ」の売上げを売店収入として計上しました。

2) 喫茶収入

エントランスホールからの景色を觀賞しながら飲む一杯のコーヒーのおいしさをアピールして売上げをのばしてきました。最近、リピーターに「イケビの珈琲はほんとうにおいしい」と声をかけられます。2011 年からジェラートを扱い、2013 年からは抹茶、2016 年には冷抹茶をメニューに加え、新たな客層を呼び起こしてきました。2018 年春からはコーヒーチケットを販売しています。企画展と連動して売上げ増を図ります。2025 年より、諸経費の高騰により、5 年ぶりにドリンクやコーヒーチケット代を 40 円値上げしました。

3) スポーツカードショー収入

スポーツファン、スポーツカードファンとの交流を促進し、スポーツカード文化の啓蒙とさらなる向上を目指し収益を図りました。

①BBM スポーツカードショー 2025 夏の陣 in 浦佐（池田記念美術館）

■日時：2025 年 7 月 27 日（土） 参加者 27 名

②BBM スポーツカードショー 2026 冬の陣 in 浦佐（池田記念美術館）

■日時：2026 年 1 月 31 日（土） 参加者 27 名

4) 施設使用料収入

「新潟日報カルチャースクール」「スポーツ&ライフ南魚沼スポーツ・文化教室」「雪見展」「一箱古本市」など、これまで「入館料」として計上していたものを令和 5 年度から新たに「施設使用料」として計上し、計上の厳密化を図りました。エントランスホールなどを利用する各種イベント（コンサート、公演、講座、教室など）の開催や地域の皆さんによる施設使用料で美術館の収益に努めました。